



Fグループ会報

小さなワイマルだったけど

学院長 小 塩 節

J.S.バッハがライプツィヒで、その多産な生涯をおえで来年は満250年。その1年前の今年1999年は、同じドイツの詩人J.W.v.ゲーテが、ワイマルで、「もっと光を」の一語をのこして82歳半の長寿をおえてから、ちょうど250年になります。

ゲーテが生まれて育ったフランクフルト市は、ユーロ発行もとのEU中央銀行の同市設置よりも、詩人の誕生を誇りにしています。そしてEUヨーロッパ連合は、今年のヨーロッパ文化首都に、なんと人口6万人しかいない小さなワイマルを選んだのです。ゲーテが、友人シラーやヘルダーたちとともに、当時はもっと小さな町だった、人口6000人しかなかったワイマルを、ヨーロッパの枠を超えて全世界に文化的な力を放射させるみごとな都市としたからなのです。

このワイマルにはバッハも長く働いておりました。ゲーテはバッハを聴くと「神の永遠の胸の中にある安らぎ」を感じたと言っています。若きメンデルスゾーンもしきりにゲーテを訪ねてきます。そしてベートーヴェンの音楽をゲーテに紹介したのでした。少女クラーラ・ヴィーグもゲーテにとても可愛がられます。シューマンの奥さんになったあのクラーラです。



のちにはさらにリストもワイマルに居を構え、全ヨーロッパの優秀な生徒たちを呼んで、無償で指導教育をしました。こんな小さな、それも貧しい町が、かくも豊かな文化都市となりえたとは、世界歴史の偉観と申せましょう。一Fグループの皆さん、大学も学院も、内容次第です。規模の大小ではない。いい教育がなされているか。そこに本当の学問と研鑽が進められ、音楽でいえば本物の音楽がひびいているか。それがポイントなのですよ、ね。ワイマルのようにフェリスが益々輝いていきますように、祈り努めて参りたいと願うものです。

学院創設130周年に向けて

理事長 中嶋省吾

フェリス女学院は、2000(平成12)年に、M.E.キダーア女史がヘボン塾に引きついで塾を始めた1870(明治3)年から数えて130年間歩み続けたことになります。丁度、20世紀を終えて21世紀を迎えるとする時でもあり、よく記憶されるべき記念の時期と云えましょう。この時にあたり、当学院では、そのこれまでの歴史において類を見ない規模で、今後の教学の歩みの基礎を築く大事業に取り組むことになりました。

画されました。山手の中学・高等学校の中に校舎の改築と緑園の音楽棟の増築とはすでに工事が始まり、緑園のレッスン室・練習室棟の増築は1999年初秋に完了します。大学図書館と文学部棟との建設は基本計画はほぼ固まりつつあり、その着工に向けて準備が進められつつあります。これから2年余りの間、山手と緑園との両校地において新しい校舎が次々次々と形づくられていくことになります。



山手の中学・高等学校の校舎は建築後70余年を経て老朽化し、災害時に人命の危険が予想されるばかりでなく、生徒数の増加、教育方法の進歩、カリキュラムの多様化などへの対応の遅れから、10数年来、改新築が要望されていました。大学図書館は、山手校地の用途制限上、緑園校地での本格的建設に踏み切らねばならない状況となりました。また、大学文学部は、緑園と山手との2校地に教育・研究活動が分断されているため、カリキュラム上および研究指導上の困難を解消すべく、緑園校地に文学部棟を新設することを強く要望されることになりました。あわせて、音楽学部の緑園におけるレッスン室・練習室の不足への対応も数年来懸案となっていました。

これらの教学上の要望に応えて、新しい時代に向けて施設を充実するため、総額60数億円に及ぶ建設事業が計

学校の財産にとって60数億円の建設資金の準備は容易ならぬ負担であり、その80%近くは借入に頼らねばなりません。幸いに、公的資金その他から低利の借入が期待できそうですが、それに、これまでの積立金を加えても、なお、約6億円を内外からの御寄付に仰がねばなりません。すでに、そのために、学院全体、中学・高等学校、大学と3つの募金委員会を組織して頂き、委員の皆さんにそれぞれ御尽力頂いております。Fグループの皆さんにも大学募金委員会から具体的にお願い申し上げるかと思います。よろしくお願い申し上げます。

私たちは、このような時期に当学院に関わりを持ったことを一緒に喜びとし、主の栄光があらわれるために用いて頂けることを一緒に感謝したいと思います。

Fグループの皆様へ

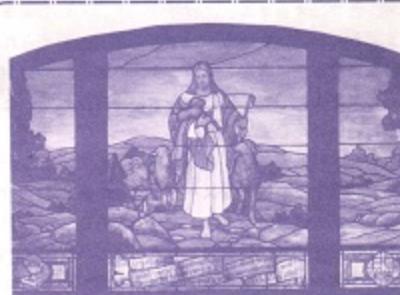
Fグループ会長 中田幸子

Fグループの皆様お変わりなくお過ごしでしょうか。今年もFグループ会報をお届けする季節になりました。学校を卒業して遠くへ離れてしまった方々、お忙しくてFグループの活動に参加できない方々、「1年に一度のこの会報をとても楽しみにしています。」と言う嬉しいお声も時々いただきます。Fグループの活動も年々活発になってきました。音楽を学ぶものにとって学んだことを発表することはとても大切です。Fグループではできるだけ沢山の演奏機会を作りたいと考えています。年1度のジョイントコンサートも最近は出場希望者が多くなりとても喜ばしい事です。今年の活動予定は会報にも書かれていますが主だったものを少し詳しく書きますと、9月16日はティータイムコンサート。同窓会室を開放して美味しいお茶とお菓子を頂きながら比較的先輩の方々の音楽とおしゃべりを楽しむ会です。

10月15日はジョイントコンサート。5名の演奏に加え今は亡き久保田良作先生の生徒を中心とした弦楽アンサンブルの演奏は初めての試みです。

11月13日は研修会。中田喜直先生をお迎えして私達が余り教わっていない「日本歌曲の歴史」を平松英子さんと工藤博さんの歌を聞きながら勉強します。皆様の参加を心からお待ちしております。

来年はフェリス女学院創立130周年の年になります。それに向かって新校舎建築計画、それに伴う募金活動と全学院あわせて大きな事業に取り組んでいきます。皆様方にもこれから色々とお願いがあると思いますが、ご自分のできる範囲の中でのご協力をお願い致します。私たちにはフェリスで学び、育ち、卒業しました。その心を決して忘れないようにしたいと思います。



カイパー講堂 おわかれコンサート

日 時：1999年9月25日(土)
1:00開場 1:30開演
会 場：フェリス女学院
カイパー記念講堂
入場料：2,000円（高校生以下 1,000円）

出 演：
大島妙子(ピアノ)
高橋和美(ソプラノ) 中島裕美子(ピアノ)
岡崎光子(ヴァイオリン) 河合訓子(ヴィオラ)
アンサンブル カリヨン(ハンドベル)

*入場料はすべてフェリス女学院中学高等学校の新校舎建築への寄付金とさせて頂きます。

主 催 フェリス女学院 白薔薇会
問合せ TEL 045-641-5200 同窓会室

F グループ同窓会総会から…



▲ 中島理事長ご挨拶。同日に行われたフェリス女学院創立記念式典より受け付けで下さる。



▲ 渡邊 明学部長、学部にかける熱い思いを語られる。



▲ 音楽科草創期に教鞭をとられた寺西春雄先生



▶ オルガンの岩本とも子先生
「石井記念オルガンは今年で10才になります…」

音楽学部の近況から

音楽学部長 渡邊 明

音楽学部が1989年、短大から4年制の学部へ移行してから、今年で10年目を迎えます。定員50名で始められた声楽、器楽、楽理の3学科の小さな所帯は、今では全学生で400名を上回る大きな所帯へと成長しました。更に昨年からは大学院研究科も開設され、定員15名のところ昨年は16名、そして今年は19名が入学し、ますます大所帯へと成長してきており、この10年はまさに激動の10年だったと言えるでしょう。

さて、世の中では少子化の問題から、これからは大学はどうあるべきかが、問われています。音楽大学も然り、私達は世間的に評価されている今こそ、更なる飛躍をすべきと考え、次のような決断をしました。

まず、学科別定員の変更です。声楽学科30名、器楽学科40名、楽理学科10名としていたところを、声楽学科は5名減らし25名、器楽学科は5名増やし45名、楽理学科は変わらず10名と、器楽学科を大幅に拡大し、更に器楽学科の中のピアノ専攻を30名程度に縮小する予定です。これは従来の専攻楽器に加え、オーケストラを作るため楽器を増やそうというもので、今までのピアノ、オルガン、フルート、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロに加え、来年度から7つの楽器が増えます。弦では、コントラバス、管ではオーボエ、クラリネット、そしてトランペット、ホルン、トロンボーンの金管楽器も加えられ、講師陣は只今宣伝に奔走しています。同窓生の皆様にも、是非とも声を大にしてこのことを大いに宣伝していただきたいと願っています。

この器楽学科拡充のもう一つの理由として、ここ十数年全国の高等学校ではプラスバンド活動が盛んに行われ、しかもその構成員のほとんどが女性であることを注目し、そのような彼女達に門戸を開こうというのがねらいです。一方ピアニストや声楽家志望の学生数を増やすことにはもはや限界があり、このまま単に定員を満たすことだけに集中していてはレベルの低下にもなりかねないと考えるからです。それよりもいかに質の高い教育をするかに重点を置き、専攻学生を鍛錬する攻めの姿勢を敢えて選びました。そしてかつてフェリスの建学の精神を改めて思い起こし、日本だけでなく、横浜の港から世界へ目を向けて、グローバルな視野を持ったレベルの向上を目指すべきだと思うのです。

その意味から昨年は大学院開設コンサートとしてバッハの「ヨハネ受難曲」を演奏し、ドイツ、ハンブルクでの演奏を実現することができました。来年3月には、フェリス女学院創立130周年及び学部開設10周年を記念し、Fグループとの共催による「マタイ受難曲」演奏会を予定しております。そして再びハンブルクでの「マタイ」演奏、更に「マタイ」を復活させたメンデルスゾーンによる海外演奏旅行の実現に向けて目下努力しているところです。

(1999年6月1日、Fグループ総会でのスピーチより)

1999年6月1日(火) 12:00~14:30

横浜崎陽軒 本店 にて



▲ 新卒生の演奏……先輩たちの前で
緊張、緊張……

同窓会支部報告



北支部



中部支部



関西支部



九州支部



▲ 最後は、いつもの「夏の思い出」

来年の総会は2000年5月28日(日)午後1時30分より横浜崎陽軒にて開催します。ご予定にお入れ下さい!!

海外からのたより

ドイツ
Witten

「私の仕事」

鈴木・クブスキー・園子 (35回)

ウィーン、ザルツブルクを経てドイツに来てからそろそろ10年になろうとしています。この地で音楽療法士としてのディプロムを得、音楽療法士として働き始めてから約5年、現在の私の職場はヴィッテン/ヘルデッケ大学アンブロック病院、脳神経科のリハビリテーション専門病院です。ここで週4日、別の癌専門病院で週1日、患者さん達の治療にあたっています。



音楽療法の講演会で (5.22.99 横木にて)

音楽を療法の手段として患者さんと向き合うようになってから、私の中で音楽に対する認識に大きな変化がありました。以前音楽は私にとって習う対象であったように思います。偉大な作曲家達の曲を表現するために必要なテクニックを修得しようと努力してきました。現在私は

とって音楽はコミュニケーションの手段であり、人間の個性と出会う上で言葉よりも直接に響き合う心の声です。そして音楽は苦し悪しに関わらず人の個性の一端として全ての人に備っているものだと日々実感しています。その個性(音楽)を表現として引き出し、病いや障害、心の閉塞等から離れた様になっていたその泉を、又土砂に埋まり出口を塞がれ行き場を失ったその流れを再び解放し、潤す仕事が音楽療法士の仕事であると思っています。

患者さん達はその心の声を楽器を通してぶつけてきます。10人の患者さんが同じ楽器(例えはドラム)を弾いても、本当に10通りの違った個性が表現されます。音楽療法士はその患者さんの表現を、まとまらない叫びに似た思いを、ピアノで即興的に受け止め、共に音楽として形を持つものに削り上げていきます。病い等によってゆがめられた個性は、療法士との音楽活動を通じ、しだいにその患者本来の、病いを越えて自分本来の表現へと変化してきます。病いによって失われていた自分を取り戻し、見直すことが、その病いを克服するうえで大きな力となります。音楽療法は医療チームの大切な構成要因です。

音楽療法士としていつも心がけてなくてはと思うことは、患者さん達の様々な表現に応えるため、私自身の内にある音楽を、その心の泉を日々豊かに保ち養うということです。

(ドイツ連邦共和国公認音楽療法士)

1998年度 Fグループ

会計報告

(1998.4.1~1999.3.31)

<収入の部>

項目	予算額	決算額
終身会費	3,800,000	4,450,000
総会会費	250,000	230,000
研修会会費	154,000	257,000
ティータイム会費	30,000	55,000
ショート・コンサート	300,000	368,000
宛名シール	15,000	9,280
フェリス祭	30,000	32,000
雑収入	10,000	1,800
銀行利息	5,000	3,323
小計	4,594,000	5,406,403
前年度繰越金	2,959,256	2,959,256
収入合計	7,553,256	8,365,659

<収出の部>

項目	38年度予算	決算額
(1)運営費	[992,000]	[760,000]
会議費	0	0
印刷費	50,000	43,575
通信費	10,000	0
人件費	343,000	336,000
交際費	90,000	35,252
事務費	20,000	27,865
出張費	100,000	37,590
交通費	250,000	244,500
学年幹事会費	72,000	35,218
雑費	7,000	0
予備費	50,000	0
(2)活動費	[3,231,000]	[2,732,032]
総会関係費	800,000	793,033
研修会関係費	377,000	357,869
ティータイム関係費	150,000	131,974
会報関係費	727,000	570,026
ショート・コンサート	300,000	286,832
リサイタル後援費	200,000	40,210
支部関係費	402,000	417,770
慶弔関係費	200,000	72,513
フェリス祭	75,000	61,805
(3)諸会費	[371,000]	[370,000]
全同窓会会費	71,000	70,000
維持協力会費	300,000	300,000
(4)積立金	[0]	[0]
名簿積立金	0	0
その他積立金	0	0
(5)予備費	[0]	[0]
小計	4,594,000	3,862,032
剰余金	2,959,256	4,503,627
支出合計	7,553,256	8,365,659

定期預金 12,596,056円

名簿積立金 1,356,712円

1997年度フェリス女学院全同窓会会計報告

白菊会・りてら・リベラト・Fグループ

(1998年6月1日~1999年5月31日)

前年度繰越金	1,363,856円	
収入	全同窓会会費	280,000円
	利 息	1,236円
入	小計	281,236円
	合 計	1,645,092円
支出	各支部へ祝儀	60,000円
	クリスマス礼拝関連費	124,749円
	貢金箱2個作成費	3,295円
	送 料	1,090円
	電報料	3,118円
	小計	192,252円
翌年度繰越金	1,452,840円	
合 計	1,645,092円	

※ 各グループより、70,000円ずつ徴収

来年度繰越金 1,452,840円

♪コンサートのお知らせ♪

Fグループ
ティータイムコンサート

“お茶とお菓子と音楽と…”
美味しいお菓子とお茶を頂きながら、素敵な音楽をおしゃべりを楽しみにいらっしゃいませんか？

お 話 大島久子（1回）
 「半世紀に出会った人々」
 ～音楽をめぐる出会いから～
 歌とお話 江口元子（4回） ピアノ——松場知子
 ミニコン・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（ヴォルフ作曲）
 日 時 9月16日（木） 14:00~15:30
 場 所 フェリス女学院大学6号館第1別館（山手校舎）
 同窓会館1Fホール
 会 費 1000円（含茶葉代）
 定員 先着50名
 お問合せ
 行委員 柴田美和子
 Fグループ事務局 T/F 045(681)6740
 （木曜日 10:00~17:00）

Fグループ
Joint Concert

日 時 10月15日（金） 18:30開演
 場 所 フェリスホール（山手校舎）
 出演者 声 楽 — 石田万智（48回）
 ピアノ — 田口涼子（48回）
 斎藤定子（12回）
 ピアノ — 熊本美也子（17回）
 2台ピアノ — 田村郁子（32回） 脇谷敦子（32回）
 ピアノ — 田口純子（24回）
 弦楽合奏 — Fグループアンサンブル
 チェンバロ — 山名朋子（33回）
 会 費 2,000円
 お問合せ
 常任委員 井上眞記子
 Fグループ事務局 T/F 045(681)6740
 （木曜日 10:00~17:00）

事務局だより

◆住所・電話・姓などの変更の場合は旧姓・整理番号（宛名シール右上）も明記して事務局までお知らせ下さい。

又、同封の不明者リストの中で連絡先のわかる方を見つかった場合も同様にお知らせ下さい。

◆同窓会館1階にはピアノつきの部屋（50名）がございます。クラス会、ミニ・コンサート、練習等ご利用下さい。

◆宛名ラベルの印刷を1枚（24面）80円でうけたまわっております。クラス会の郵便物の発送の折にご利用下さい。

毎木曜日 10:00~17:00 開室
 tel/fax 045(681)6740

福澤アクリヴィ女史の歌声が初のCD化!!

● シェーンベルク「月に憑かれたピエロ」（日本初演）、フランス歌曲全13曲（フォーレ、ドビュッシー他）
 ● 問合せ先

福澤エミ

Fグループ
研修会

日本歌曲の歴史
 ~唱歌・童謡・歌曲~
 講師 中田喜直先生

特別演奏 平松英子先生(Sop.) 工藤 博先生(Br.)
 安藤友侯先生(Pt.)
 日 時 11月13日（土） 18:30~
 場 所 フェリスホール（山手校舎）
 会 費 1,000円
 お問い合わせ

執行委員 比留間和子
 Fグループ事務局 T/F 045(681)6740
 （木曜日 10:00~17:00）

Fグループ
後援演奏会

(’98.12~’99.11)

- DECEMBER CONCERT (三田陽子先生をしのんで)
 特別出演 — 高木東六
 出演 — 川辺智子(32回) 劇 純実、山口勝敏
 98.12.3 横浜みなとみらい小ホール
- 田中美穂ピアノリサイタル 田中美穂 (40回)
 共演 — 桐山建志(Vn) 柳田耕治(Vc)
 99.6.12 新宿市民文化センター大ホール
- フェリス音楽教室 45周年記念音楽会
 指揮 — 渡邊 明
 演奏 — フェリス音楽教室生徒・卒業生
 賛助出演 — 宇内千晴、平松英子、辻 有子
 松堂久美恵(39回)
 99.7.18 横浜みなとみらい大ホール
- オウ・キヨウソン&谷口直子 ドイツ歌曲のタペ
 谷口直子(Pt. 26回)、オウ・キヨウソン(Sop.)
 99.9.7 港南区民文化センターひまわりの郷
- Liederabend ~歌曲のタペ~
 松堂久美恵(Sop. 39回)、北原葉子(Pt. 39回)
 99.10.2 横浜みなとみらい小ホール
- 江口元子リサイタル ~ゲーテ生誕250年を記念して~
 江口元子(Mez. 4回)、サイモン・ショセー(Br.)
 ダルトン・ボールドウィン(Pt.)
 99.11.28 サントリーホール 小ホール

後援演奏会について

演奏会の後援については次のように定められています。
 1) 同窓会は、常に向上心にあふれた会員の演奏会を後援する。

- 後援は、フェリス女学院大学音楽学部同窓会関係者（同窓生、職員他）を対象に行うものとする。
- 後援の依頼は、所定の用紙に記入の上、演奏会の2ヶ月前までに執行委員又は事務局に提出すること。
- 後援の許可は役員会に諮り決定され、「[後援]フェリス女学院大学音楽学部同窓会」と、記述ができる。
- 上記以外に関しては、その都度役員会で決定する。

慶祝

1999年7月2日 小塙 節 学院長
 第47回日本エッセイストクラブ賞受賞
 「木々を渡る風」(新潮社)

弔慰

1999年1月12日 佐々木 あつみ(22回) ご逝去
 (1999年8月現在 連絡があった方のみ)